

新規恒久施設の施設運営計画 ～中間のまとめ～

平成28年5月

東京都オリンピック・パラリンピック準備局

目次

1 運営計画の位置づけ	P. 1
2 これまでの検討経過	P. 2
3 新規恒久施設のレガシーの基本的考え方	P. 3
4 施設別運営計画		
(1)オリンピックアクアティクスセンター	P. 5
(2)海の森水上競技場	P.17
(3)有明アリーナ	P.29
(4)カヌー・スラローム会場	P.41
5 競技施設整備と周辺のまちづくりとの連携	P.51
6 今後の検討	P.53
7 今後のスケジュール	P.54

1 運営計画の位置づけ

- 都が新たに整備する施設は、大会後も都民、国民の貴重な財産として末永く有効活用し、レガシーとして次世代に引き継いでいかなければなりません。
- そのため、施設整備と並行して、大会前の早い段階から民間の知恵とノウハウを取り入れ、大会後の施設運営計画について検討を進めています。
- この施設運営計画は、大会後の施設運営の指針となるものであり、今般、4施設について、これまでの検討結果を「中間のまとめ」として取りまとめました。

※ 4施設：オリンピックアクアティクスセンター、海の森水上競技場、有明アリーナ、カヌー・スラローム会場

【後利用の方向性】

- 平成26年12月～平成27年1月
第1回～第3回「アドバイザリー会議」開催
- 平成27年6月
「アドバイザリー会議のまとめ」
「新規恒久施設に係る後利用の方向性」公表

【施設運営計画】

- 平成27年10月
施設運営計画策定支援事業者決定、施設運営計画検討会を設置（4施設）
- 平成28年3月
第4回「アドバイザリー会議」開催
- 平成28年5月
施設運営計画（中間のまとめ）公表

3 新規恒久施設のレガシーの基本的考え方

大会後も、都民、国民の貴重な財産として有効活用します。

(1) 多目的な活用

競技スポーツに加え、都民のスポーツ利用や文化・レジャー活動、青少年教育の場として多目的な活用を図ります。

(2) 周辺との連携による広がりのあるレガシーの形成

施設周辺との連携を図り、様々な人が集い、交流が生まれるにぎわいの拠点としていきます。

スポーツと体験の一大拠点に



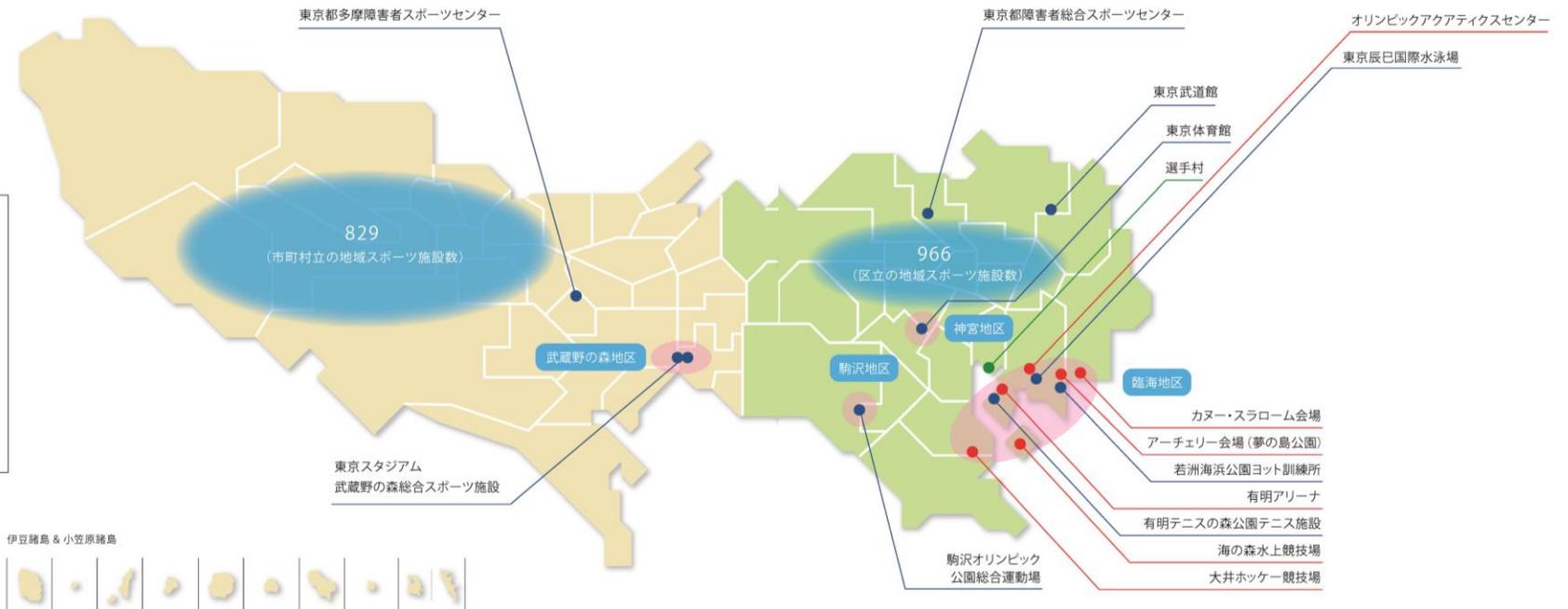
東京のスポーツ拠点の拡充

スポーツ都市東京の実現に向けた拠点の拡充

ベイエリアにおける
新規恒久施設の
整備

神宮地区・駒沢地区・
武蔵野の森地区における
スポーツ施設の集積

市区町村の
地域スポーツ施設
の整備支援

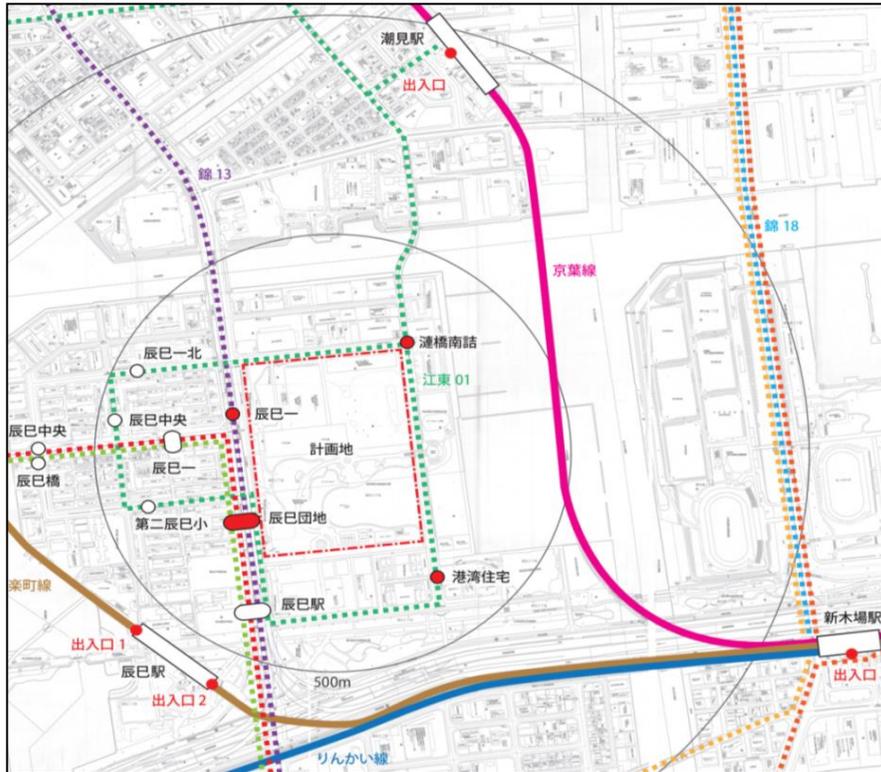


「2020年に向けた東京都の取組」より

(1) オリンピックアクアティクスセンター



4 (1) ① 建設予定地の概要・周辺図



立地条件

所在地

江東区辰巳二丁目2番

周辺土地利用

- 運河に囲まれたウォーターフロント地区にあり辰巳の森海浜公園内に整備予定(建築予定地は現在は未開園地)
- 首都高速をはさんで西に辰巳団地が立地し、南に物流施設ゾーンが立地
- 敷地に近接して東京辰巳国際水泳場（1993年竣工）がある

交通アクセス

- 辰巳駅から公園南西出入口まで徒歩10分
- 潮見駅から公園北東(出入口なし)まで徒歩11分
- 新木場駅から公園南東出入口まで徒歩17分
- バス停辰巳団地から公園南西出入口まで徒歩2分
- 首都高速湾岸線、9号線深川線から車でアクセス

所有の状況

土地は所有・管理とも東京都

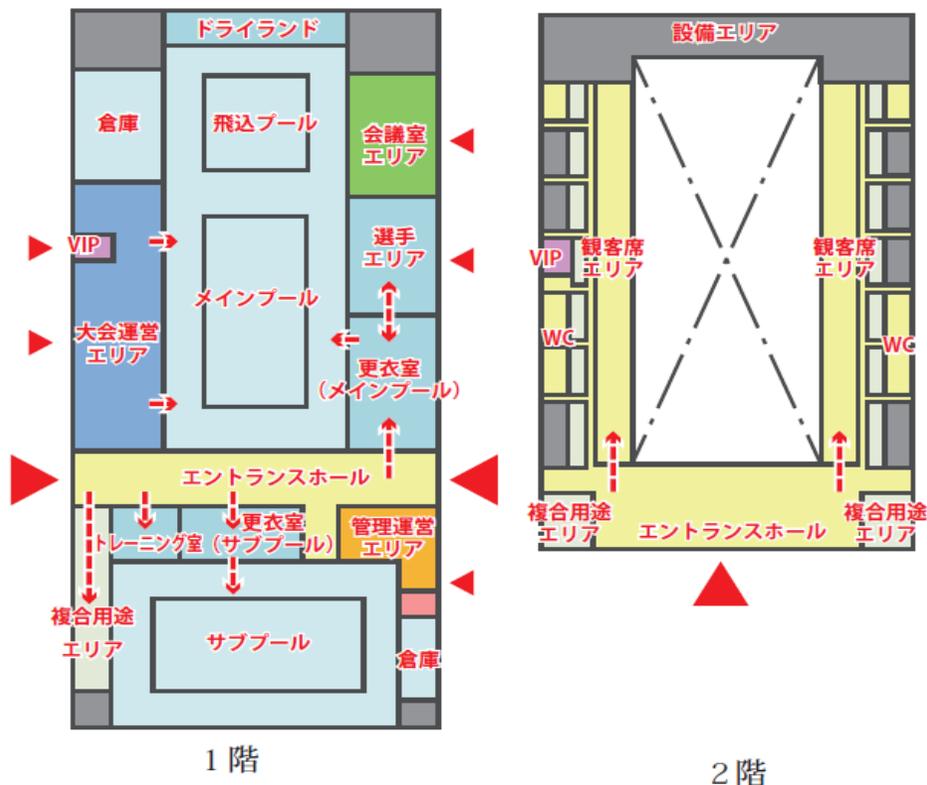
上位計画等

- (上位計画)
- 東京都「東京都長期ビジョン」(平成26年12月策定)
 - 東京都「東京の都市づくりビジョン」(平成21年7月改定)
 - 江東区「都市計画マスタープラン」(平成23年3月策定)
- (その他関係法令等)
- 「都市計画法」「建築基準法」「東京都海上公園条例」など
 - 用途地域
第一種中高層住居専用地域

4 (1) ② 施設内容

建築物概要

階数	地上3階、地下1階
構造	鉄骨造 一部鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄筋コンクリート造
延床面積	約46,600㎡



各施設の概要

メインプール

プール	50m×25m、10レーン
観客席等	約5,000席(注) ○車椅子使用者席(同伴者席併設)を観客席の約1%確保
その他	○可動床は、水深3m～0m ○可動壁(短水路2面利用可能)

サブプール

プール	50m×25m、8レーン
その他	○可動床は、水深3m～0m ○可動壁(短水路2面利用可能)

ダイビングプール

プール	25m×25m×5m
その他	○隣接してドライランドを設置

その他

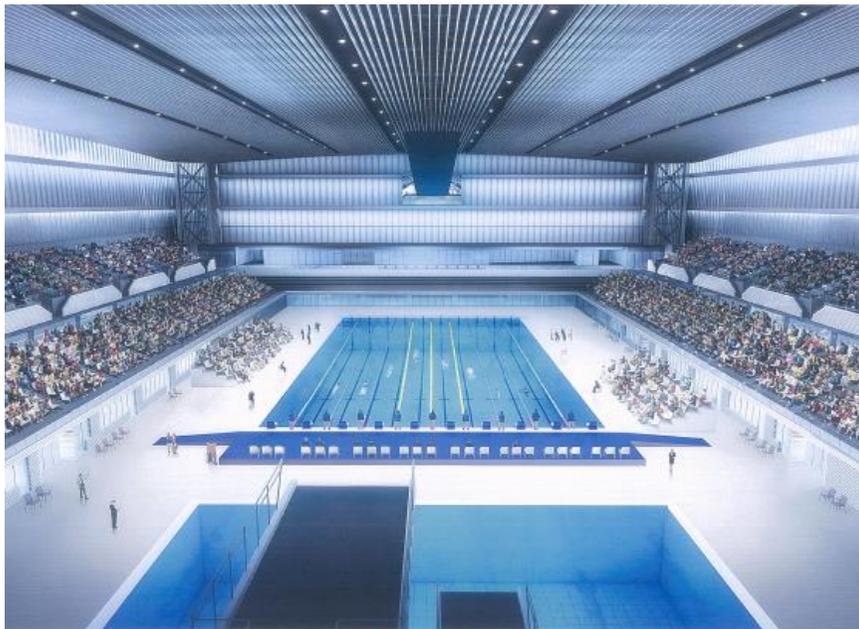
- 家族更衣室
- 多目的トイレ
- トレーニング室、スタジオ、会議室
- 店舗スペース等

(注) 大規模な国際大会などの開催を視野に入れ、検討していきます。

※ 施設内容については、アクセシビリティ・ガイドラインを踏まえ設計していきます。

オリンピックアクアティクスセンターは、以下のような施設としていきます

- 約5,000人の観客を収容可能な国内外の主要大会の会場、また、アスリートの競技力強化、育成の場としていきます
- 都民のための水泳場という機能も併せ持つ施設として、子どもから高齢者までが安心して、日頃からスポーツ活動や健康増進等を行うことができる場としていきます
- 海上公園との一体感やつながりをもった都民の憩いの場としていきます



運営の基本方針は、以下の4点とします

1 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用

- ・ 国際大会(ワールドカップ等)、国内大会(日本選手権等)の会場として活用します
- ・ トップレベルからジュニアまでの競技力強化、育成の場としていきます
- ・ 都民が大会を観戦しやすい環境を提供します

2 子どもから高齢者まで幅広く楽しめる水泳場を提供(競技大会と都民利用の共存)

- ・ 都民が日頃からスポーツ活動を行うことができる都民のための水泳場という機能を併せ持つ施設としていきます
- ・ 年間を通じ、一般利用できるプールとします
- ・ 子ども、高齢者、障害者が安心して快適に利用できるプールとします
- ・ 水泳以外の様々なウォータースポーツを身近で楽しめる場として活用します

3 大会運営諸室を有効活用し、健康増進、文化・教養活動を推進

- ・ 大会時における諸室使用とともに、一般利用としても、スタジオ、会議室等を健康増進、文化・教養の場として有効活用していきます

4 都民の憩いの場として、海上公園と一体になったにぎわいを創出

- ・ プール以外の空間を活用するとともに、公園とも連携し、都民の憩いの場を創出し、普段、プールに馴染みがない方などの施設への来場を促していきます

<年間延べ来場者目標> 約100万人(大会等競技利用・観戦等、一般利用・教室等)

1 国際・国内競技大会の会場、競技力向上の場として活用

- 国際大会、国内大会、都大会等主要大会の場として活用
- 競技力向上事業の展開（オリンピック・パラリンピアン水泳教室、こども水泳スクール）等
- レーン貸し（団体利用） 等



2 子どもから高齢者まで幅広く楽しめる水泳場を提供（競技大会と都民利用の共存）

- 一般開放（個人利用）
- アクア水上レジャーひろば
- 健康増進事業（水中歩行、アクアビクス、ベビースイミング）等
- 多様な活用（スキューバー体験教室、ダンススイミング）等



3 大会運営諸室を有効活用し、健康増進、文化・教養活動を推進

- スタジオにおける健康増進事業（ヨガ、エアロビクス、太極拳）等
- トレーニング室の一般利用
- 会議室を活用した子どもの一時預かり、スポーツ関連セミナー、文化・教養講座 等

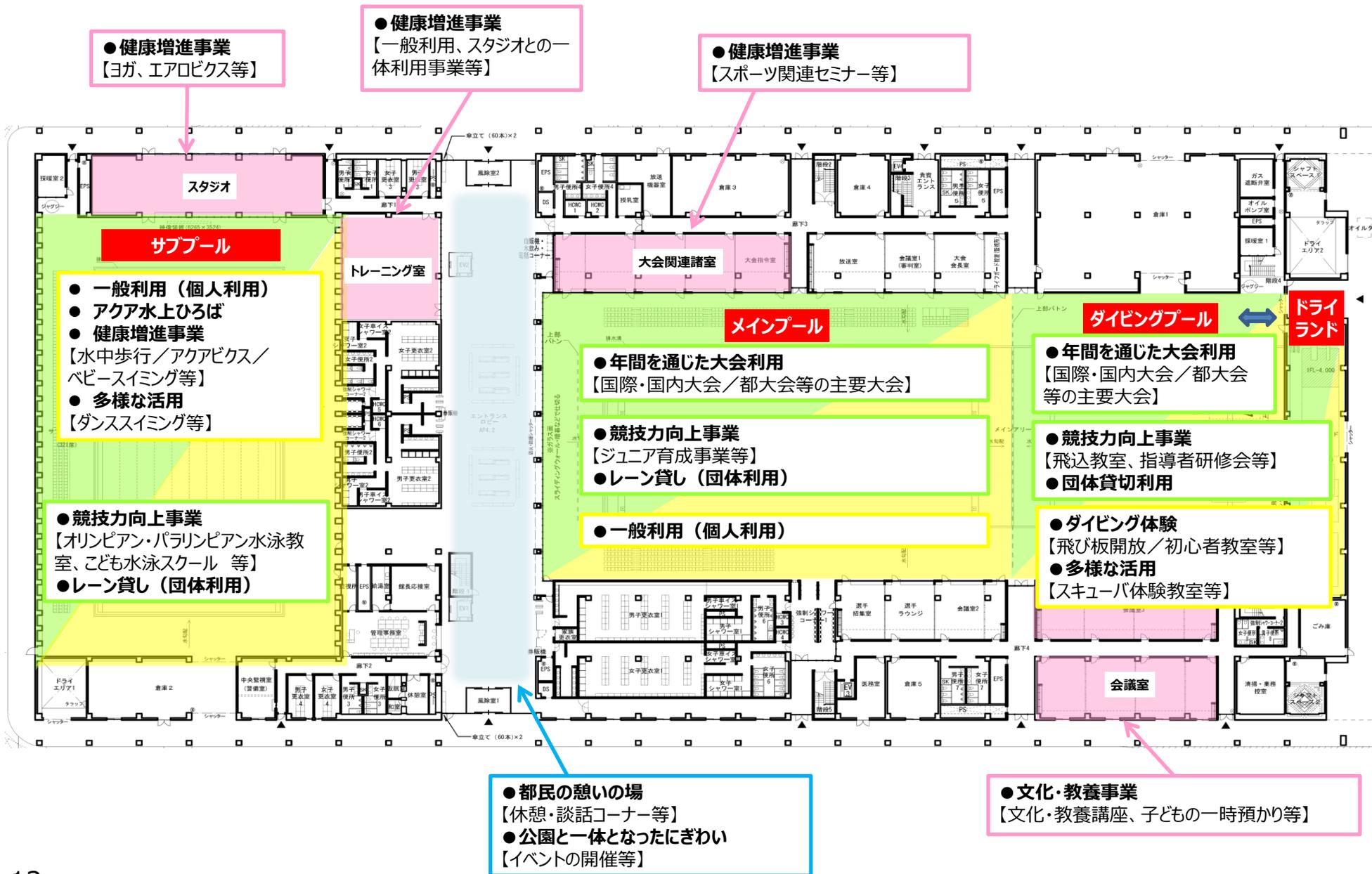


4 都民の憩いの場として、海上公園と一体になったにぎわいを創出

- デッキ等におけるイベントの開催
- オリンピック・パラリンピックメモリアルコーナー、休憩・談話コーナー、貸出ギャラリーの設置
- (大会時等、大人数が来場の場合)臨時のコンビニエンスストア等を設置



4 (1) ⑥ 事業実施場所 (1階)



4 (1) ⑥ 事業実施場所 (2階)

●公園と一体となったにぎわい
【イベントの開催等】

●オリンピック・パラリンピックメモリアルコーナー
●貸出ギャラリー

デッキ
スペース

サブプール
上部屋根

デッキ
スペース

●大会時観戦
●親子ふれあいスポーツ観戦事業

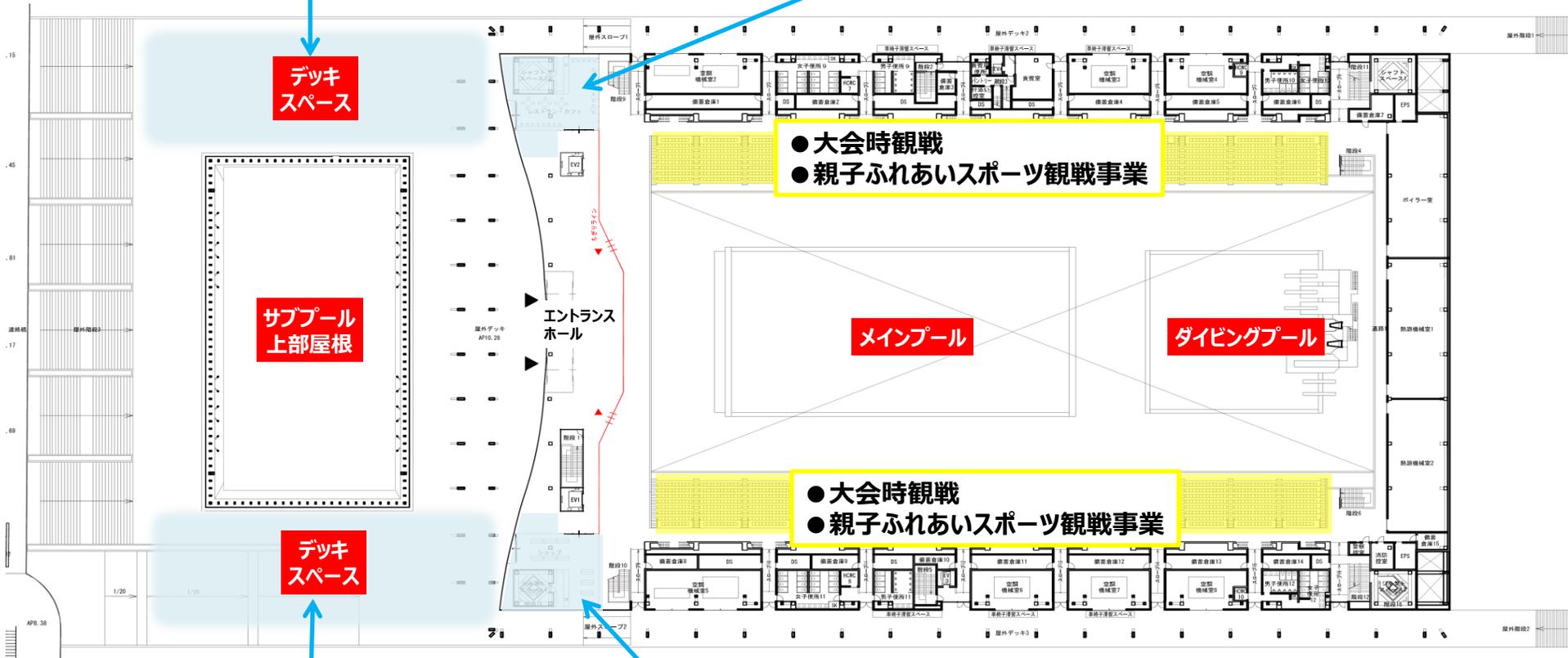
メインプール

ダイビングプール

●大会時観戦
●親子ふれあいスポーツ観戦事業

●公園と一体となったにぎわい
【イベントの開催等】

●都民の憩いの場
【休憩・談話コーナー等】
●大会時等の臨時コンビニエンスストア



4 (1) ⑦ 年間利用イメージ

※実際の利用方法は、大会の規模等により異なります。

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
メイン プール	大会開催時	国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時	個人利用											
		専用利用（レーン貸） 一部ジュニア選手育成コース、スタートターン講座等											
サブ プール	大会開催時	個人利用 専用利用（レーン貸）											
	通常時	早朝専用利用(レーン貸・予約制)				早朝 個人利用					早朝専用利用(レーン貸・予約制)		
		個人利用 専用利用（レーン貸） こども水泳教室、水中歩行、アクアピクス、ベビースイミング 等											
		水上レジャーひろばとしての活用（学休期間及び土日祝日）											
ダイビング プール	大会開催時	国際・国内大会、都大会等を開催											
	通常時	個人利用（認定を受けた利用者） 専用利用（飛び込み、シンクロ、スキューバダイビング等）											
		週1回2時間程度、1m、3mの飛び込みの一般公開を実施（学休期間は毎日）											
スタジオ トレーニングルーム		ヨガ、エアロピクス、健康増進講座（プール併用）等／スタジオの空き時間は専用利用に貸出											
会議室		文化・教養講座、子どもの一時預かり等／空き時間帯は専用利用に貸出											
大会関連諸室		スポーツ関連セミナー等／空き時間帯は専用利用に貸出											

デッキ等を活用したイベント（年1回）

4 (1) ⑧ 週間利用イメージ

※実際の利用方法は、大会の規模等により異なります。

区分		月	火	水	木	金	土	日		
メイン プール	昼間	個人利用／専用利用（レーン貸し）					大会準備	大会利用		
	夜間	個人利用／専用利用（レーン貸し）				ジュニア選手育成コース等の競技力向上に向けた事業				
サブ プール	早朝	専用利用（レーン貸し）【予約制】					水上レジャー広場	個人利用／専用利用（レーン貸し）		
	昼間	個人利用／専用利用（レーン貸し）				水中歩行ほか健康増進事業実施				
		夜間	こども水泳教室等、50m測定記録会等							水中歩行ほか健康増進事業実施
ダイビング プール	昼間	個人利用／専用利用					大会準備	大会利用		
	夜間	個人利用／専用利用				初心者飛込教室、スキューバ体験教室等				
スタジオ	ヨガ、エアロビクス、健康増進講座等／空き時間帯は専用利用に貸出					大会利用				
トレーニングルーム	個人利用									
		スタジオとの一体利用事業等を実施								
会議室	文化・教養講座、子どもの一時預かり等／空き時間帯は専用利用に貸出					大会利用				
大会関連諸室	スポーツ関連セミナー等／空き時間帯は専用利用に貸出					大会利用				

施設及び公園の相互利用促進

- 周辺公園内にランニングコースを設定
 - ・ランニングコース・ニュースポーツの案内も表示
- ランナーやニュースポーツ等公園利用者による施設内更衣室・シャワー室の利用



アクセス改善

- 案内サインの表示
 - ・最寄駅からのルートに施設までの案内を表示
- 園路灯の改善
 - ・夜間でも安心して利用できる環境づくり



辰巳の森海浜公園



にぎわいの創出

- 定期的イベントの開催 (デッキを中心として)
 - ・全館を活用した大規模な催しや、大型のビニールプールを設置したイベント開催
- 子ども広場の設置 (園内)
 - ・公園内の樹木等を活用し、子どもが遊べる空間を創出

辰巳の森緑道公園

公園マップ (C) 東京港埠頭株式会社

※ なお、東京辰巳国際水泳場については、オリンピックアクアティクスセンターとは異なる機能を有するスポーツ施設としての活用を検討していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

(2) 海の森水上競技場



4 (2) ① 建設予定地の概要・周辺図



立地条件

所在地

○中央防波堤埋立地

周辺 土地 利用

- 物流施設や環境関連施設が立地
- 中央防波堤内側埋立地において、海上公園である「海の森公園（仮称）」が整備中
- 中央防波堤外側と若洲とを結ぶ「東京ゲートブリッジ」が開通

交通 アクセス

- 東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ「テレコムセンター」駅から都営バスで約8分、「環境局中防合同庁舎前」バス停車
- 東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート」駅から都営バスで約15分、「環境局中防合同庁舎前」バス停車
- 第二航路海底トンネル（江東区青海）、臨海トンネル（大田区城南島）、ゲートブリッジ（江東区若洲）、南北線（江東区有明、整備中）から車でアクセス

所有の状況

○土地は所有・管理とも東京都

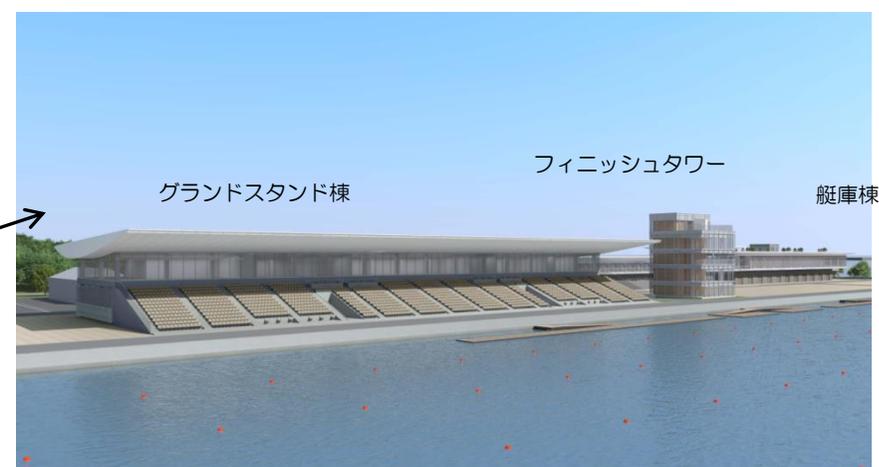
上位計画等

- （上位計画等）
- 東京都長期ビジョン（平成26年12月策定）
 - 東京港第8次改訂港湾計画（平成26年11月改訂）
 - 海の森（仮称）構想 答申（平成17年2月）

- （その他関係法令等）
- 「都市計画法」「建築基準法」「東京都海上公園条例」など
 - 計画地は、市街化調整区域

施設の概要

計画地面積	約79ha (水域を含む)	
競技コース	規模	2,000m×8レーン
グランドスタンド棟 (2階建て)	規模	5,613.12㎡
	内容	観客席 約2,000席 (車椅子使用者席 (同伴者席併設) を約1%確保) 倉庫、オフィス、ラウンジなど
艇庫棟 (2階建て)	規模	5,977.09㎡
	内容	宿泊施設、艇庫、レストラン、会議室など
その他	○フィニッシュタワー (5階建て)	
	○計時小屋	
	○水門など	



※施設内容については、アクセシビリティ・ガイドラインを踏まえ設計していきます。
 ※この内容は現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4 (2) ③ 施設の位置づけ

海の森水上競技場は、以下のような施設としていきます

- 国内最高峰の水上競技施設として、ボートやカヌー（スプリント）等の競技大会の会場・競技力向上の場としていきます
- 広大で静穏な水面や周辺の陸域を活かし、都民の新たなスポーツ体験、青少年教育の場としていきます
- 隣接する「海の森公園（仮称）」など周辺施設と連携し、臨海部の新たなにぎわいの場、憩いの場としていきます

【大会開催時のイメージ】



【にぎわいの場、憩いの場のイメージ】



※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

運営の基本方針は、以下の4点とします

1 最高峰の水上競技大会の会場・競技力向上の場として活用

- ・ ボート、カヌー（スプリント）、ドラゴンボート、トライアスロンなどの国際大会（世界選手権・アジア選手権など）や国内大会（全日本選手権など）の会場、国内選手の強化・育成の拠点等としていきます

2 青少年へのスポーツ教育・環境教育の場として活用

- ・ 青少年を対象とした、水上スポーツ体験・スポーツ教育のほか、海の森公園（仮称）の森づくり、環境関連施設等と連携した環境学習など青少年教育の場として活用していきます

3 多様なスポーツに親しめる機会を創出

- ・ 施設のポテンシャルを活かし、ランニングやサイクリング、スタンドアップパドルボードなどの様々なアウトドアスポーツを楽しむ機会を創出します

4 様々な人が集い訪れるにぎわいの拠点として活用

- ・ 隣接する海の森公園（仮称）と一体的な利用を図ります。また、イベントの開催、レストランや宿泊施設の活用など、一年を通じたにぎわいを創出し、様々な人が集い訪れる施設としていきます

<年間延べ来場者目標> 約35万人（競技利用、レクリエーション利用など）

1 最高峰の水上競技大会の会場・競技力向上の場として活用

- ボート、カヌー（スプリント）、ドラゴンボート、トライアスロンなどの国際大会（世界選手権・アジア選手権など）の実施
- 国内大会（全日本選手権など）の実施
- 国内選手の強化・育成の拠点等として活用



ボート（国営木曽三川公園）



カヌー（スプリント）（国営木曽三川公園）



ドラゴンボート

2 青少年へのスポーツ教育・環境教育の場として活用

- 青少年を対象とした、水上スポーツ体験・スポーツ教育の実施
- 海の森公園（仮称）の森づくり、環境関連施設等と連携した環境学習の実施



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』



環境教育プログラム『プロジェクト・ワイルド』

3 多様なスポーツに親しめる機会を創出

- サイクリング、屋外ヨガのほか、ランニング、スタンドアップパドルボードなどアウトドアスポーツの実施



サイクリング (国営昭和記念公園)



ランニング (国営海の中道海浜公園)



屋外ヨガ (浜名湖ガーデンパーク)



スタンドアップパドルボード

4 様々な人が集い訪れるにぎわいの拠点として活用

- イベント・イルミネーションなどによる冬季の利用促進
- 市民参加型のアートイベントやフードイベントの開催
- 企業研修やセミナーなどの誘致



イルミネーション (国営昭和記念公園)



アートイベント (国営昭和記念公園)



フードイベント (浜名湖ガーデンパーク)



企業研修・セミナー

4 (2) ⑥ 事業実施場所

競技水面や施設エリアに加え後利用エリアにおける事業を検討し、一般利用を促進するなど、施設の有効活用を図ります。

競技コース



(国営木曽三川公園)

【競技利用】

ボート、カヌー（スプリント）、ドラゴンボート、トライアスロン等の大会利用、練習利用、合宿

- 団体貸切
- 個人利用

【レクリエーション利用】

- 水上スポーツ体験

施設

【グラウンドスタンド棟】

- 観客席（大会時）
- 諸室の活用（スタジオ、ラウンジ等）

【艇庫棟】

- 宿泊室、艇庫
- 諸室等の活用（会議室、レストラン等）



屋内ヨガ

(SUGATA鎌倉)



レストラン

(国営昭和記念公園)

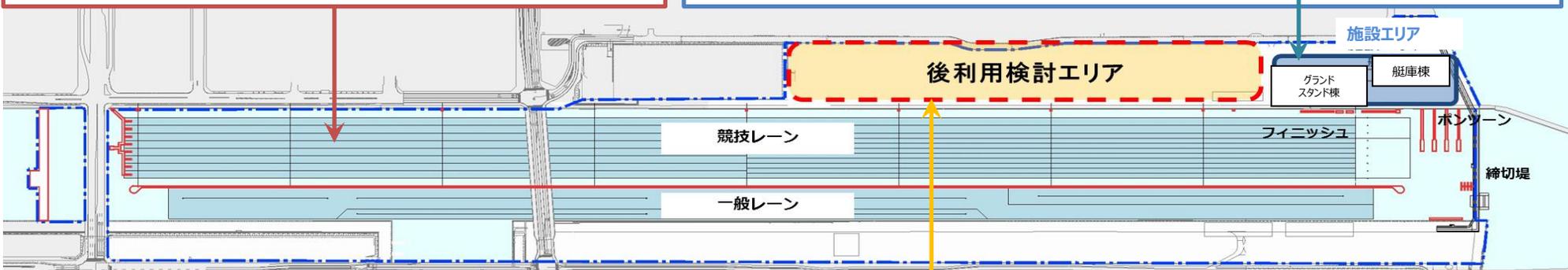


宿泊室



艇庫

(国営木曽三川公園)



【後利用検討エリア】

イベント広場、グラウンド、駐車スペース（イベント時・通常時）
団体用艇庫（競技団体等のニーズを踏まえ今後調整）など

※整備内容や事業スキームなど具体的な内容を今後検討

グラウンドの例



(国営昭和記念公園)

イルミネーションの例



(国営昭和記念公園)

4 (2) ⑦ 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
競技コース	競技利用 ボート カヌー(スプリント) ドラゴンボート トライアスロン等	大会利用												
		練習利用・合宿など												
	レクリエーション 利用	水上スポーツ体験												
施設	スタ グランド 棟	フィットネス												
	艇庫棟	レストラン、宿泊施設など												
後利用検討エリア	イベント (スポーツ、アート、 フード)	イベントなど					イルミネーション・イベントなど							
	アウトドアスポーツ	サイクリング、アウトドアフィットネスなど												
その他	環境学習	環境学習など												

濃色：主な利用を想定する時期

※海の森公園（仮称）と連携するイベントも含まれます。

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4 (2) ⑧ 時間帯による利用イメージ

区分		営業期間	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
競技コース	競技利用 ボート カヌー(スプリント) ドラゴンボート トライアスロン等	通常時	練習利用・合宿										
		大会時	大会利用										
	レクリエーション 利用	通常時	水上スポーツ体験										
施設	スタ グラ ンド 棟	フィットネス	フィットネス										
	艇 庫 棟	レストラン 宿泊施設等	レストラン、宿泊施設など										
後 利 用 検 討 エ リ ア	イベント (スポーツ、アート、 フード)	通常時	イベント、イルミネーションなど										
	アウトドアスポーツ	通常時	サイクリング、アウトドアフィットネスなど										
そ の 他	環境学習	通常時	環境学習など										

※海の森公園（仮称）と連携するイベントも含まれます。

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

青少年教育との連携により、大会に向けた気運醸成、心身の健全育成、競技人口の裾野の拡大を目指します

- 1 大会時の景観・雰囲気づくり（2020年大会に向けて）
- 2 青少年を対象としたボート・カヌー等の体験教室、環境学習の実施（後利用時）
- 3 地方からの学生選手・見学者の受け入れ（後利用時）



(国営昭和記念公園)



(国営木曾三川公園)

- 大会後の海の森水上競技場は、隣接する海の森公園（仮称）と連携した水と緑のネットワークの拠点として、自然を享受し、水辺に親しめる憩いの場としていきます

【連携による効果】 利用案内の効率化、施設間の相互利用、効果的な事業展開 等

海の森水上競技場と海の森公園(仮称)連携イメージ

水と緑の
ネットワーク

海の森公園（仮称）
（森ゾーン）

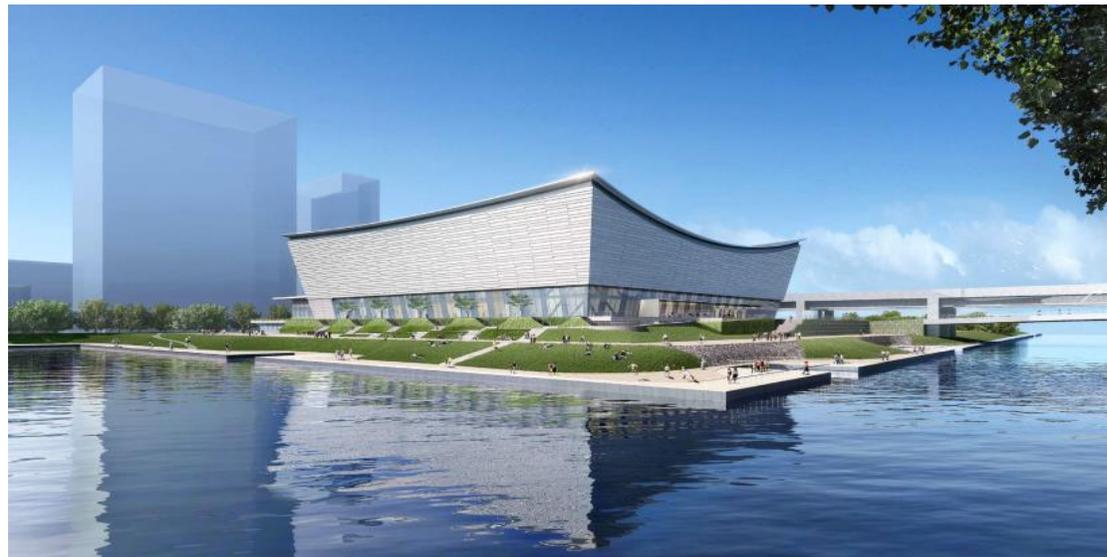
連携のイメージ

- ・利用案内・情報提供の効率化
- ・駐車場・宿泊施設・飲食施設の相互利用
- ・連続性のあるサイクリング・ランニングコース・散策通路 等

海の森水上競技場（海ゾーン）

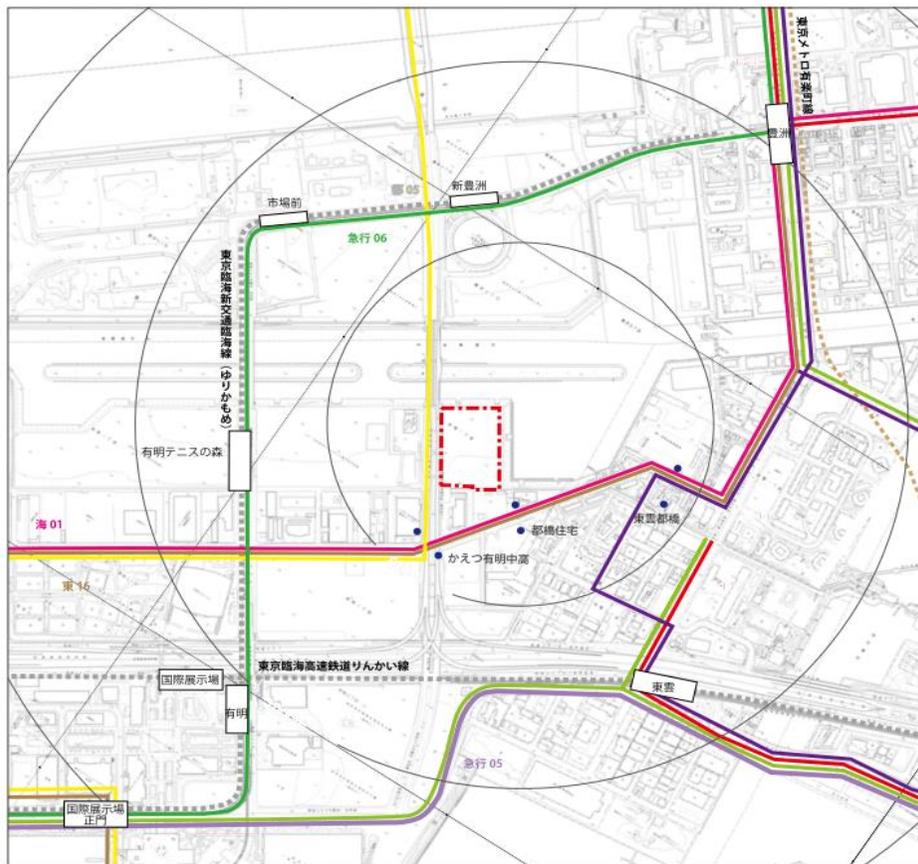
※海の森公園（仮称）のコンセプトや海の森倶楽部(注)の活動の現状なども踏まえつつ、今後、連携のあり方について具体的に検討
 (注)海の森について、広く国内外に情報発信するとともに、多様で魅力的な行催事や樹林地等の育成管理の機会を広く都民に提供し、都民サービスの向上を図る団体
 ※この内容は現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

(3) 有明アリーナ



※この図は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

4 (3) ① 建設予定地の概要・周辺図



凡例

- (点線) 鉄道
- (実線) バス
- 駅
- バス停

立地条件

所在地

○江東区有明一丁目

周辺土地利用

- 海上公園予定地を介して北と東の2面で東雲運河に接する
- 高層マンションが隣接し、100~300m程度の距離には小中学校や大学も立地
- 「旧防波堤」の緑と海への眺望を活用したうるおい豊かな居住機能の配置を基本としながら、公園や公共公益施設が配置されていく方針

交通アクセス

- 東京臨海新交通臨海線ゆりかもめ「有明テニスの森」駅から徒歩約15分
- 東京臨海高速鉄道りんかい線「国際展示場」駅または「東雲」駅から徒歩約20分

所有の状況

○東京都

上位計画等

(上位計画)

- 東京都「東京都長期ビジョン」(平成26年12月策定)
- 東京都「東京の都市づくりビジョン」(平成21年7月改定)
- 江東区「都市計画マスタープラン」(平成23年3月策定)
- 東京都「臨海副都心まちづくり推進計画・有明北地区まちづくりガイドライン」(平成26年7月改定)

(準拠すべき主な法規制等)

- 「都市計画法」「建築基準法」「海岸法・港湾法」など
- 再開発等促進区を定める地区計画(臨海副都心有明北地区地区計画)
- 用途地域
第一種住居地域

※建設可能な施設は住宅、店舗(3,000㎡以下)等だが、今後地区計画の変更により新たに建設可能な用途を設定予定

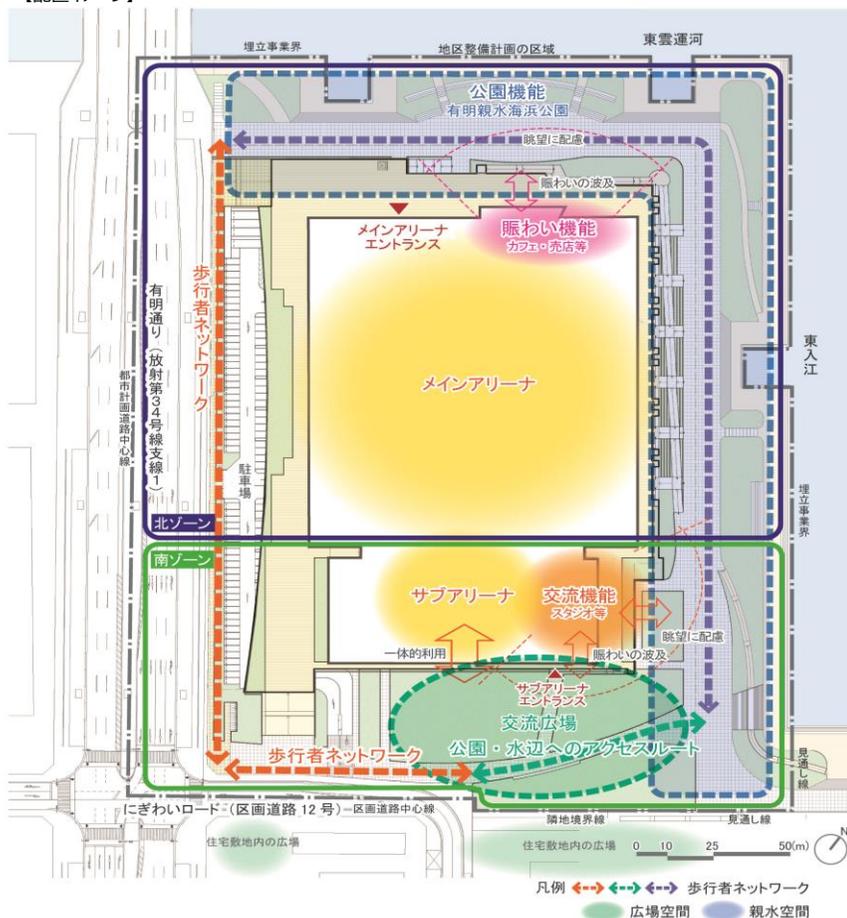
※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

4 (3) ② 施設内容

建築物概要

敷地面積	約36,600㎡
延床面積	約45,600㎡
構造	鉄筋コンクリート造、一部SRC・S造
高さ・階数	約40m、地上5階建

【配置イメージ】



各施設の概要

メインアリーナ	規模	約4,100㎡
	観客席等	約15,000席（仮設席含む） ○車椅子使用者席（同伴者席併設）を約1%確保
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○コンクリート床 ○コンサート等の開催への対応（十分な天井高、天井吊荷重等を確保） ○関係諸室、VIPラウンジ・VIP席 	
サブアリーナ	規模	約1,400㎡
	観客席等	メインアリーナと移動観客席を相互利用
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○木床 ○メインアリーナとの連携やサブアリーナ単独利用も考慮した配置 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○飲食・物販店舗等（メインアリーナ側、交流広場側に各1区画） ○スタジオ等 ○交流広場 ○障害者等用駐車区画の確保 	

※施設内容については、アクセシビリティ・ガイドラインを踏まえ設計していきます。

※この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

有明アリーナは、以下のような施設としていきます

- 15,000席の観客席を活かした大規模なスポーツ大会やイベントの開催に加え、都民が日常的にスポーツに親しめる場を提供していきます
- ウォーターフロントの景観を活かしたにぎわいと潤いのある、東京の新たなスポーツ・文化拠点を創造していきます

【大会開催時のイメージ】



【イベント開催時のイメージ】



運営の基本方針は、以下の5点とします

1 質の高いスポーツ観戦機会等の提供

- ・ 国内外の主要な競技大会の会場として、質の高いスポーツ観戦機会等を提供するとともに、首都東京の魅力を創出するスポーツの場として世界に発信していきます
- ・ メインアリーナについては、一定期間、スポーツ床期間（仮設のスポーツフロア）を設定します

2 魅力的なエンターテインメントの場の提供

- ・ コンサート等の文化イベントの開催など、都民に夢と感動を与える機会を創出していきます

3 身近なスポーツ施設としての機能の発揮

- ・ 魅力的なスポーツ実践の場として、サブアリーナや諸室等を活用し、都民が日常的にスポーツに親しめる環境を提供していきます

4 多様なコミュニティの場の提供

- ・ サブアリーナや会議室等の一般利用や、交流広場を活用したイベント、付帯施設の適切な配置により、様々なシーンでの利用を図り、各種コミュニティの活性化に貢献していきます

5 施設周辺との連携によるにぎわいの創出

- ・ 施設周辺の親水空間や近隣施設と連携した各種事業を実施し、様々な人が集い交流し、にぎわいを創出する空間を提供していきます

<年間延べ来場者目標> 約140万人
(競技利用、コンサート利用、イベント利用など)

4 (3) ⑤ 事業内容

メインアリーナ	
事業名	事業内容
国際スポーツ大会	各種競技の国際スポーツ大会の開催
国内大会・リーグ戦、興行スポーツ	各種競技の国内大会・リーグ戦、アイスショー、格闘技イベント等の開催
コンサート	国内外アーティスト等によるコンサートの開催
その他イベント	集会、式典等の開催

その他（全館、コンコース等）	
事業名	事業内容
オリンピック・パラリンピックメモリアルギャラリー	レガシーとしてユニフォーム・写真等で功績を紹介
スポーツショップ	ジムやランニング利用者向けにスポーツ用品等を販売
ランニング・ウォーキングコース拠点機能	ランニングステーション機能により、公園と連携したコースの拠点として利用
地域のにぎわい創出事業	定期的なにぎわいを創出（フリーマーケット、キッチンカー等）、各種イベントの開催

サブアリーナ	
事業名	事業内容
一般利用	都民の練習利用
スポーツ大会	仮設席も活用した小規模な大会の実施
スポーツ振興イベント	各種スポーツ振興イベントの実施、障害者スポーツ大会の誘致・イベントの開催等
スポーツ教室	フィットネスと連携した各種スポーツ教室の実施

スタジオ	
事業名	事業内容
フィットネス（ジム）	トレーニングジム（運動機会の提供）
フィットネス（一般レッスン）	各種スタジオレッスンの実施
フィットネス（キッズレッスン）	キッズダンス系レッスンの実施

テナント	
事業名	事業内容
テナント（交流広場側）	公園・交流広場と連携したレストラン等
テナント（メインアリーナ側）	カフェ利用を中心として売店機能も付加

【サブアリーナのスポーツ大会のイメージ】



【サブアリーナのスポーツ教室のイメージ】



【フィットネス（ジム）のイメージ】

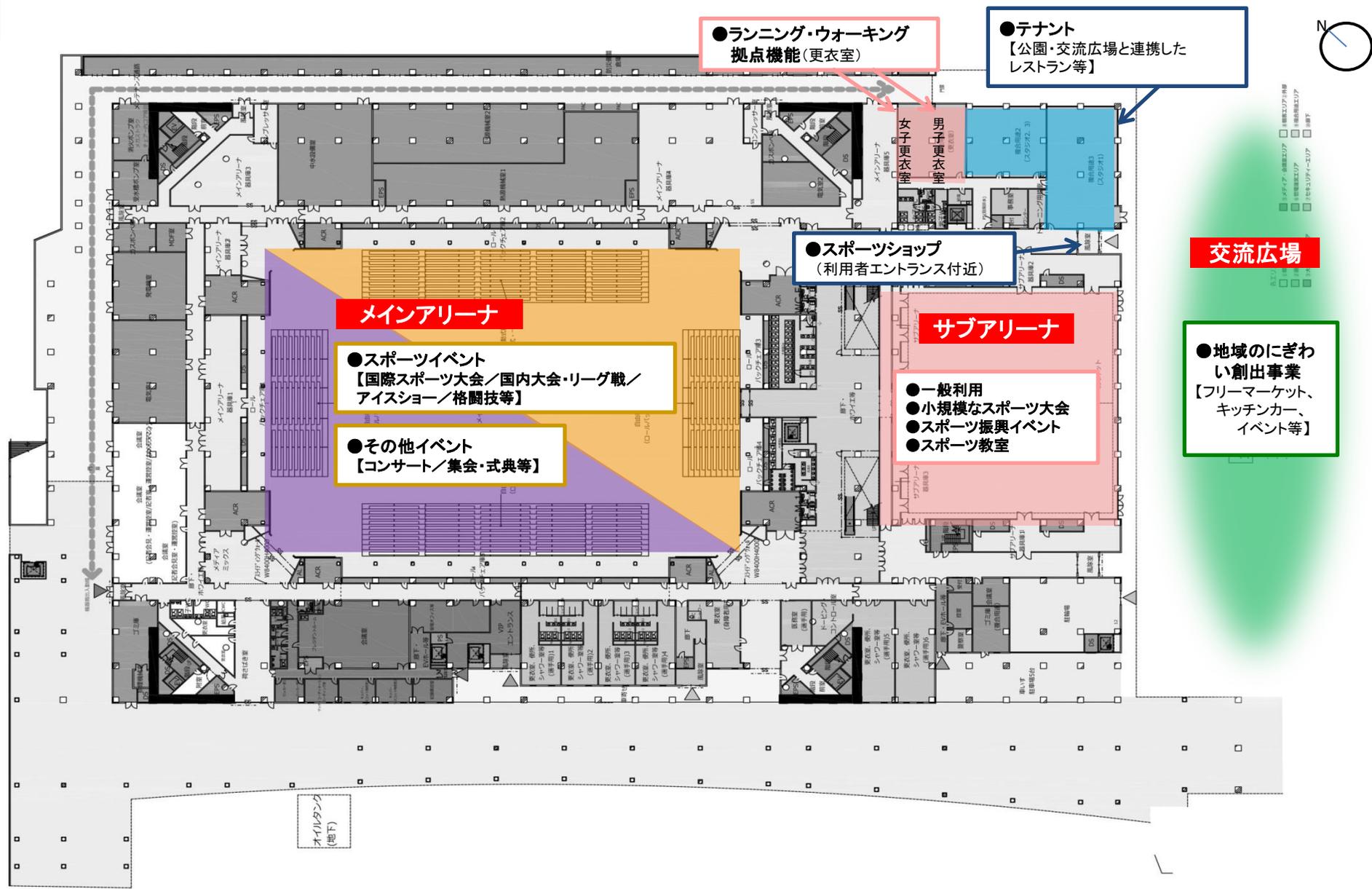


【カフェのイメージ】



4 (3) ⑥ 事業実施場所 1階

1階



※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4 (3) ⑦ 年間利用イメージ

区分		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
メインアリーナ	スポーツ	国際大会	[オレンジ色帯]											
		国内大会 (国内リーグ戦等)	[オレンジ色帯]											
		興行スポーツ (アイススケート、格闘技等)	[オレンジ色帯]											
	イベント	コンサート等	[紫色帯]											
		その他 (集会・式典等)	[紫色帯] 卒・入学式等 株主総会等 企業運動会等 (適宜実施)											
サブアリーナ	スポーツ	都民利用	小～中規模のスポーツ大会、練習等の利用											
		スポーツ教室	各種スポーツ教室、その他スタジオと連携した教室等											
	イベント	スポーツ振興イベント等												
	メインアリーナと同時利用	スポーツ大会のウォーミングアップスペース、コンサート等のサブスペースとしての利用												
フィットネス・スタジオ		インストラクターによるフィットネス指導、年齢別レッスンプログラム、サブアリーナと連携した教室												
テナント	カフェ(メインアリーナ側)	コンサートやスポーツ大会来場者等の利用												
	レストラン(交流広場側)	近隣住民の日常的な利用、公園利用者の利用												
交流広場など施設外周		キッチンカー、フリーマーケット等												
公園との連携		ランニング、ウォーキング、イベント等												

※スポーツ床（仮設のフローリング床）期間を設ける予定

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4 (3) ⑧ 週間利用イメージ①

○スポーツ床（フローリング床）期間

場所		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
メインアリーナ			スポーツ利用	スポーツ利用		設営・準備	国内リーグ戦	国内リーグ戦
サブアリーナ		主に昼間：各種スポーツ教室、その他スタジオと連携した教室等を想定					アマチュアスポーツ	スポーツ振興イベント
		主に夜間：アマチュア団体の練習等を想定						
フィットネス・スタジオ		インストラクターによるフィットネス指導、年齢別スタジオプログラム、サブアリーナと連携した教室等						
テナント	カフェ (メインアリーナ側)	スポーツ大会来場者等の利用						
	レストラン (交流広場側)	近隣住民の日常的な利用、公園利用者の利用						
交流広場など 施設外周							キッチンカー、 フリーマーケット等	
公園との連携		ランニング、ウォーキング、イベント等						

4 (3) ⑧ 週間利用イメージ②

○コンクリート床時

場所		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
メインアリーナ		集会・式典等		設営・準備	コンサート	設営・準備	コンサート	コンサート
サブアリーナ		主に昼間：各種スポーツ教室、その他スタジオと連携した教室等を想定					コンサート 物販	スポーツ振興イベント
		主に夜間：アマチュア団体の練習等を想定						
フィットネス・スタジオ		インストラクターによるフィットネス指導、年齢別スタジオプログラム、サブアリーナと連携した教室等を想定						
テナント	カフェ (メインアリーナ側)	コンサート等イベント来場者等の利用						
	レストラン (交流広場側)	近隣住民の日常的な利用、公園利用者の利用						
交流広場など 施設外周							キッチンカー、 フリーマーケット等	
公園との連携		ランニング、ウォーキング、イベント等						

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

4 (3) ⑨ 周辺地域との連携

※黒点線囲み()範囲の有明親水海浜公園(仮称)については、平成29年度から整備予定



●有明親水海浜公園(仮称)との連携

- ・ランニング・ウォーキングコースの設定
- ・拠点機能として有明アリーナの更衣室、ロッカーを利用
- ・イベントの開催など

●交流広場でのにぎわい創出事業

- ・フリーマーケット、キッチンカー、イベントの開催など

この地図は、国土地理院長の承認(平成24関公第269号)を得て作成した東京都地形図(S=1:2,500)を複製(27都市基交第838号)して作成したものである。無断複製を禁ずる。

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現段階の想定であり、今後変更する場合があります。

(4) カヌー・スラローム会場



4 (4) ① 建設予定地の概要・周辺図

周辺図



立地条件	所在地	東京都江戸川区臨海町6丁目1番 葛西水再生センター内
	周辺土地利用	○東側：葛西臨海公園、葛西海浜公園、ゴルフ場 トラックターミナル、倉庫群 ○西側：荒川 ○南側：東京湾 ○北側：首都高速道路、病院、団地、小学校 高校等
	交通アクセス	○J R京葉線「葛西臨海公園」駅から徒歩約12分 ○首都高速道路湾岸線から車でアクセス
所有の状況	土地所有者は東京都（所管：下水道局）	
上位計画等	（上位計画等） ○「東京都長期ビジョン」（平成26年12月策定） ○「東京の都市づくりビジョン」（平成21年7月改定） ○「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会江戸川区推進プログラム」（平成28年1月） （その他関係法令等） ○「都市計画法」「建築基準法」「下水道法」など ○用途地域 工業地域	

カヌー・スラローム会場は、以下のような施設としていきます

- 国内初の人工スラロームコースとして、カヌー競技のほか、ラフティングなど様々な水上スポーツ・レクリエーションを楽しめるレジャー・レクリエーション施設としていきます
- 葛西臨海公園や葛西海浜公園など、周辺施設と一体的な活用を図り、東京の豊かな自然や水辺を活かした新たなにぎわいの拠点としていきます

【主要大会を開催するコースのイメージ】



【スラロームコースの活用～ラフティング～】



運営の基本方針は、以下の3点とします

1 国内初の人工スラロームコースによる様々な水上スポーツの機会を提供

- スラロームコースを活用したカヌー・スラローム、カヌー・ワイルドウォーター（注1）などのほか、フィニッシュエリアを活用したカヌー・ポロ（注2）等、多様な水上スポーツ競技の大会会場、競技力強化の拠点としていきます

（注1）カヌーワイルドウォーター：河川の激流をくだり所要時間を競う種目

（注2）カヌーポロ：水球・バスケットボール、カヤックの要素を組み合わせたカヌーによるポロ競技

2 施設特性を活かした様々な活用の推進

- ラフティング体験などの水上レクリエーションのほか、水難救助訓練や企業研修など様々なニーズにも応える多目的な利用を図っていきます

3 周辺施設、地元区と一体となったにぎわいの創出

- 隣接する葛西臨海公園や葛西海浜公園などと一体的な活用を図るとともに、地元区の水上市場振興施策とも連携を図り、地域の新たなにぎわいの拠点としていきます

<年間延べ来場者目標> 約10万人（競技利用、レクリエーション利用 等）

1 国内初の人工スラロームコースによる様々な水上スポーツの機会を提供

- カヌーを始めとした水上競技の国際大会、国内大会の実施
- 国内選手の強化・育成の拠点
- カヌー・カヤック教室 等

【カヌー競技（スラローム）】



【カヌー競技（ワイルドウォーター）】



【カヌー競技（フリースタイル）】



【カヌー・カヤック教室の風景】



2 施設特性を活かした様々な活用の推進

- ラフティング体験などの水上レクリエーション
- 水難救助訓練（消防関係者・都民向け）、企業研修 等

【ラフティング体験】



【水上レクリエーション】



【水難救助訓練】



3 周辺施設、地元区と一体となったにぎわいの創出

- 葛西臨海公園、葛西海浜公園等との連携

【葛西臨海公園】



【葛西海浜公園】



- 周辺施設と連携したイベント等の開催

【野鳥観察】



【植物観察】



【江戸川区カヌー体験教室】



スラロームコース

【競技利用】

- カヌー・スラローム、カヌー・ワイルドウォーター、カヌー・フリースタイル等の大会、練習

【レクリエーション利用】

- ラフティング体験等

【訓練】

- 水難救助訓練

【カヌー・スラローム】



【リバーSUP】



【ラフティング体験】



フィニッシュエリア

【競技利用】

- カヌー・ポロ等の大会、練習

【レクリエーション利用】

- 水上遊具
- スタンドアップパドルボードなど

【カヌー・ポロ】



【スタンドアップパドルボード】



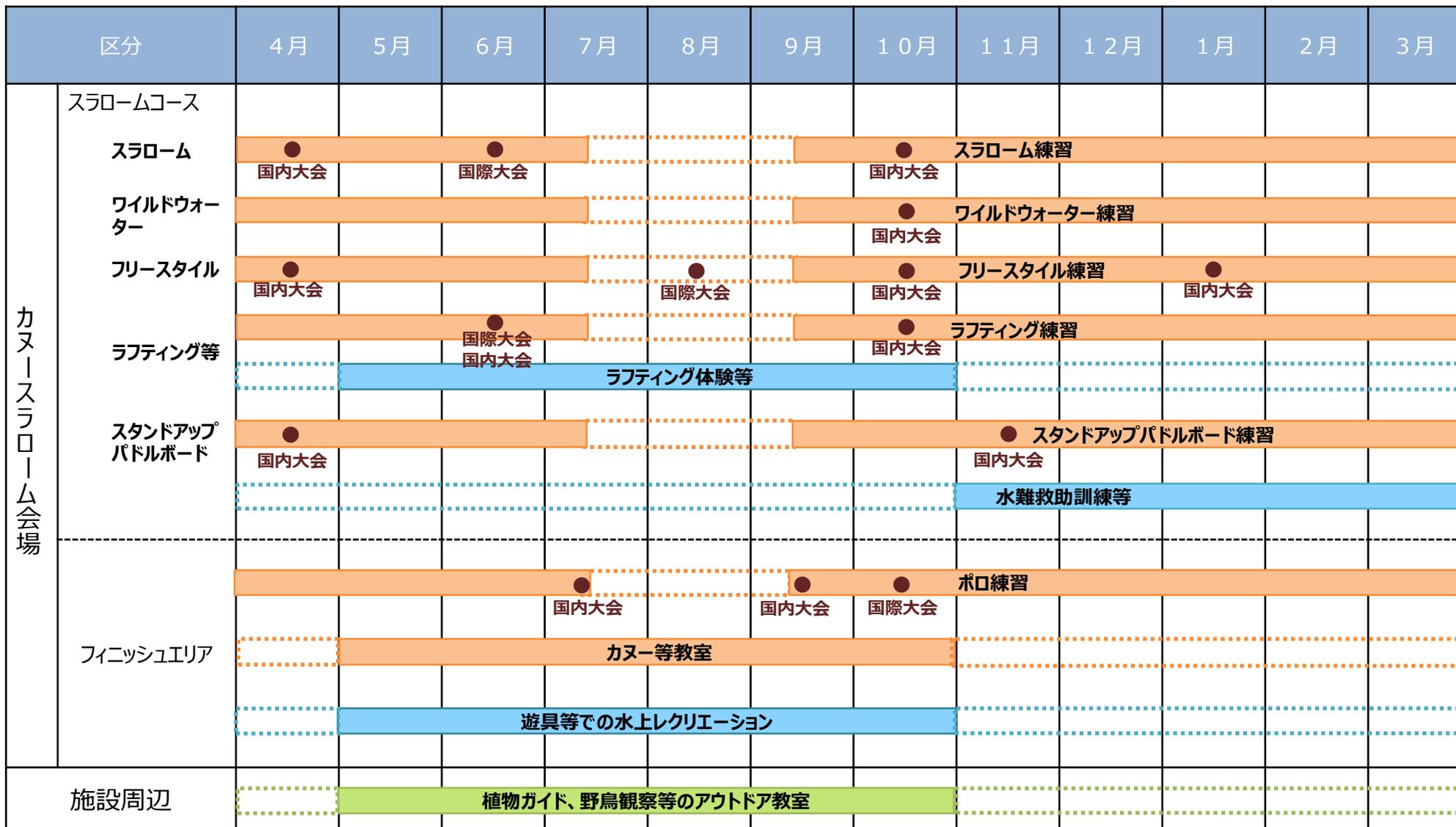
【水上遊具】



スラロームコースやフィニッシュエリアの活用に加え、公園と施設を結び付けるにぎわいの創出を検討

(注1) 現在基本設計中のため、イメージ図としています。

4 (4) ⑥ 年間利用イメージ



濃色：主な利用を想定する時期

4 (4) ⑦ 時間帯による利用イメージ

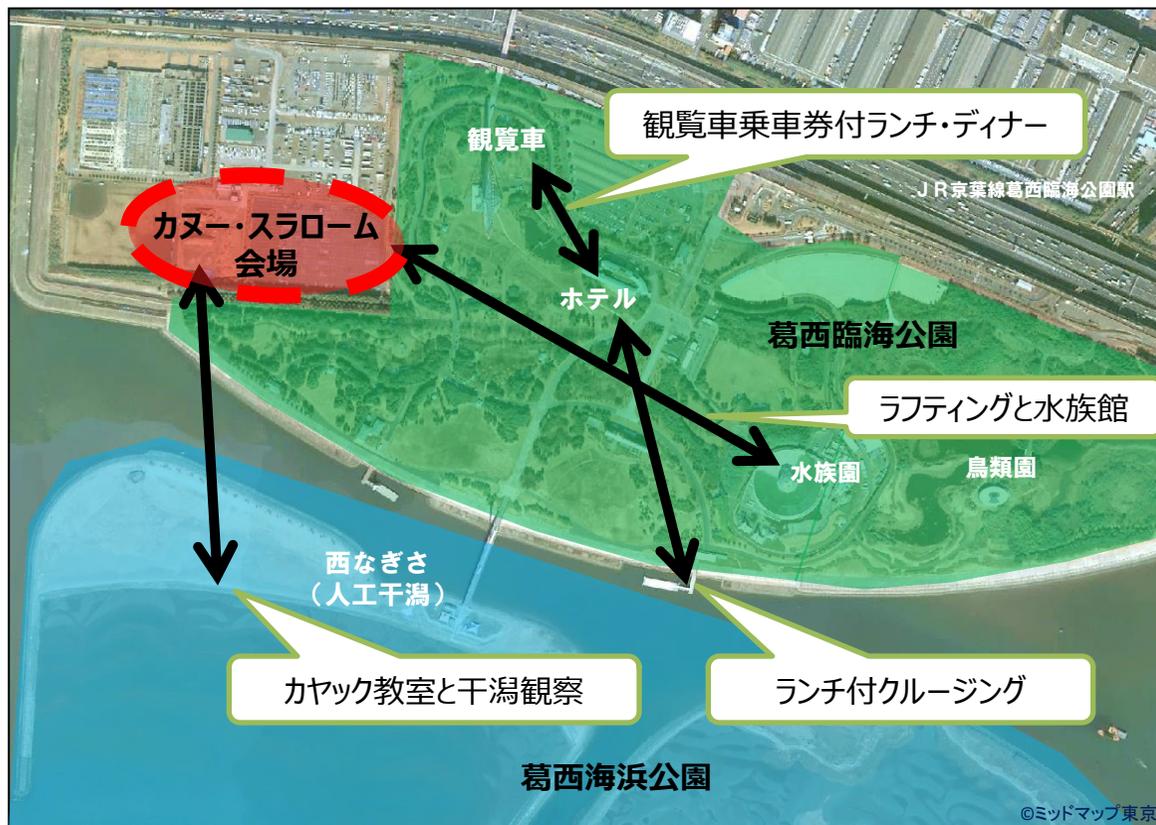
区分	営業期間	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時
スラロームコース	通常	カヌー等競技練習			ラフティング体験などレクリエーション利用						カヌー等競技練習	
	冬季			カヌー等競技練習		ラフティング体験などレクリエーション利用				カヌー等競技練習		
	大会時			カヌー等競技大会								
フィニッシュエリア	通常	カヌー・ポロ等練習			遊具等でのレクリエーション利用等						カヌー・ポロ等練習	
	冬季			カヌー・ポロ等練習		遊具等でのレクリエーション利用等				カヌー・ポロ等練習		
	大会時			カヌー・ポロ等競技大会								
施設周辺	通常	植物ガイド・野鳥観察等のアウトドア教室										
	冬季			植物ガイド・野鳥観察等のアウトドア教室								

※この内容は支援事業者の提案等に基づく現時点での想定であり、今後変更する場合があります。

4 (4) ⑧ 周辺地域との連携

- カヌー・スラローム会場に隣接する葛西臨海公園と葛西海浜公園は、年間300万人以上が訪れる都会にいながら自然を満喫できる都内有数のレジャースポット
- あらゆる都民が1日中楽しめる新たなレジャー・レクリエーション施設とするため、カヌー・スラローム会場、葛西臨海公園、葛西海浜公園の一体的な活用を検討していきます

連携のイメージ



検討例

- ・各施設の現状把握・分析
- ・全体コンセプトやゾーニング
- ・相乗効果を生み出す事業
- ・既存資源の活用
- ・一体的な管理運営方法
- ・地元区の間組との連携
(シャトルバスの運行、サイクリングロードの整備、新左近川カヌー教室等)

5 競技施設整備と周辺のまちづくりとの連携

周辺のまちづくりとの連携によるにぎわいの創出に向け、「都市づくりのグランドデザイン（仮称）」の検討とも連携しながら、面的に広がりのあるレガシーの形成を目指します。

- 競技施設に隣接する公園をはじめとした、地域資源との連携や、周辺のまちづくりとの連携を進めていきます。
- 臨海部への定常的なにぎわい機能の導入を図るとともに、競技施設の利便性の向上に資する、道路・BRT・舟運ネットワーク等の充実を図り、アクセスを強化するなど、多くの都民が大会のレガシーを享受できるよう取り組んでいきます。



臨海部の交通利便性向上の取組

2020年に向けた臨海部の交通網の整備



※選手村のBRTルートについては、大会後の開発状況にあわせて運行する

○臨海部における骨格幹線道路の整備

都心と臨海部、臨海部の東西、臨海部と中央防波堤外側を結ぶ道路の整備を進め、臨海部へのアクセスを強化

○BRTの導入

環状2号線を中心に、都心と臨海副都心とを結ぶBRTを導入

○都営バスのバス路線の拡充

臨海部の開発状況に合わせ、都営バス等のバス路線を拡充

○自転車利用環境の整備

区が取り組むシェアサイクルについて、サイクルステーション設置に対する支援、規制緩和

○舟運活性化の取組

羽田空港と都心・臨海部を結ぶ航路の充実に向けた社会実験の実施と、社会実験を踏まえた舟運活性化の検討

BRT



シェアサイクル



水上交通



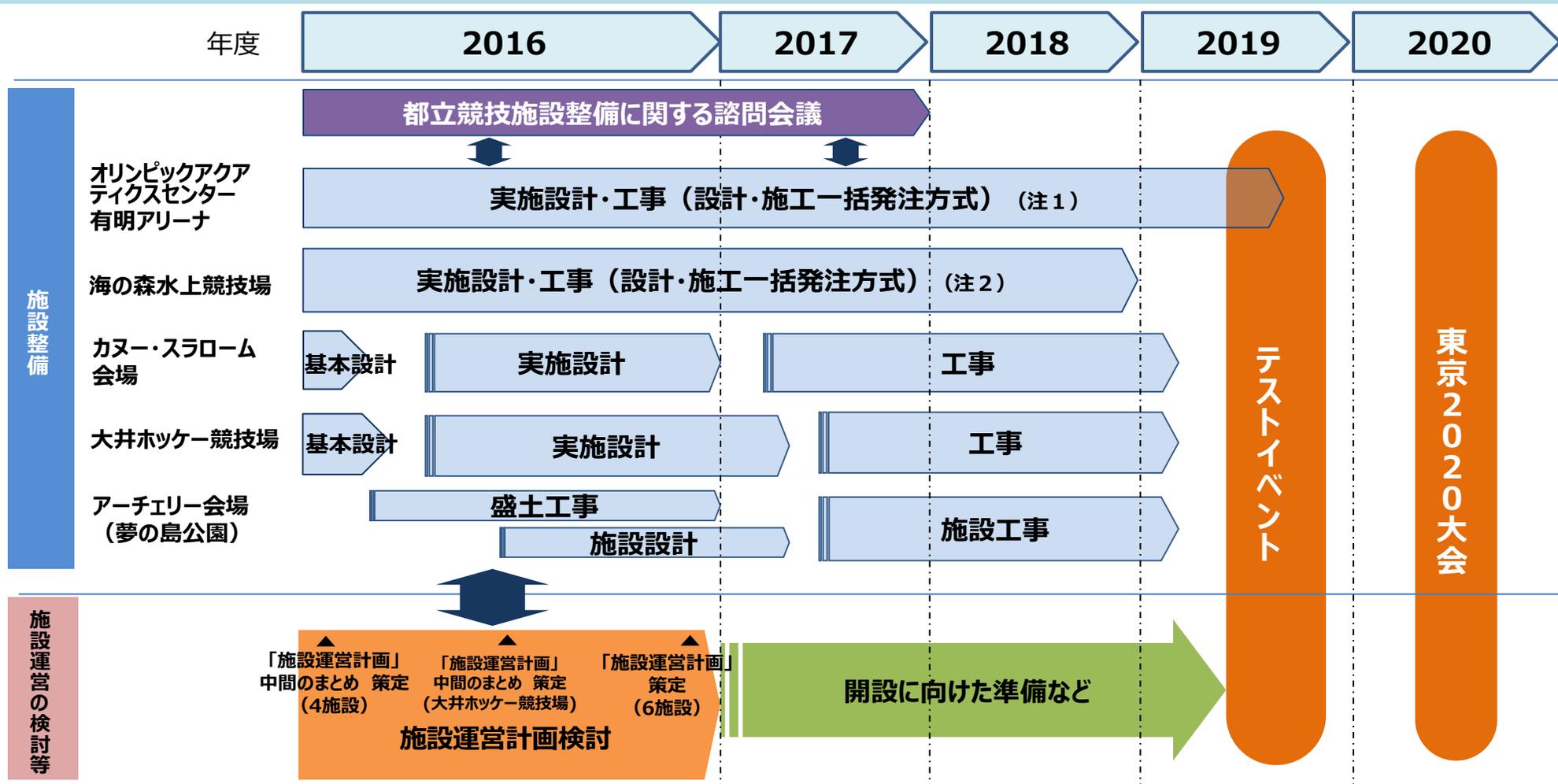
「2020年に向けた東京都の取組」より

- ◆ 大会後を見据えた舟運活性化
- ◆ 新規恒久施設への更なるアクセス強化

- ◆ 引き続き、民間の知恵とノウハウ等を取り入れながら、大井ホッケー競技場とアーチェリー会場（夢の島公園）も含めて、各施設の管理・運営のあり方を検討していきます。
- ◆ 適宜アドバイザリー会議を開催し、「施設運営計画」（最終のまとめ）を平成28年度末を目途に策定します。

7 今後のスケジュール

今後の施設運営の検討については、施設整備と十分に連携をとりながら進めていきます。



注1) 工期：【アクアティクスセンター、有明アリーナ】2016年3月～2019年12月

注2) 工期：【海の森水上競技場】2016年3月～2019年3月

※ この内容は現段階のものであり、今後変更する場合があります。

ご意見・要望の募集について

「新規恒久施設の施設運営計画（中間のまとめ）」に関する皆様からのご意見・要望を募集します。いただいたご意見・要望を参考に、十分に検討を行い、28年度末を目途に「新規恒久施設の施設運営計画（最終のまとめ）」を策定していきます。

募集期間

平成28年5月25日（水）～6月8日（水）

提出方法

Eメール、ファクス、又は郵送のいずれかの方法でご意見をお寄せください。

Eメール

S1050502(at)section.metro.tokyo.jp

※迷惑メール対策のため、メールアドレスの表記を変更しております。

お手数ですが、(at)を@に置き換えてご利用ください。

ファクス

03-5388-1227

郵送

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

問い合わせ先

東京都 オリンピック・パラリンピック準備局 大会施設部 施設整備第一課

電話 03 (5320) 7742